

投球数制限統一ガイドラインに関する Q&A

- 1 Q: 試合の途中で一旦別の守備位置について、また再び投手に戻った場合の投球数はどうなりますか？

A: 最初に登板した時の投球数と再度登板した時の投球数を合計して、その日の投球数をカウントします。登板日数は 1 日です。

例えば、3 回表に 52 球投げたところで左翼手になり、5 回の途中から再び投手になった場合は、53 球目からカウントを継続します。1 日目であれば、その日の上限は 80 球となります。

- 2 Q: ダブルヘッダーの第一試合に 79 球を投げた。一日の上限は 80 球なので、第二試合に打者一人に対して投球は可能ですか？

A: 可能です。

上限までは 1 球しか残っていませんが、当該打者の打席が終了するまでは投球が認められます。なお、第二試合の投球数は、1 球として記録されます。

- 3 Q: 打席の途中で制限数が来ても、当該打者に対しては打席終了までの投球が認められるが、打者がアウトになるのではなく、2 アウトで走者が牽制球や盗塁失敗、等でアウトになった場合、次の回に引き続きその打者の打席が終了するまで投球する事ができますか？

A: 出来ません。

走者がアウトになった時点で、攻守交代になり一旦当該打者の打席が終了し、その時点で終了となります。次の回はノーボール、ノーストライクから新たな打席が始まるので、打者は同一でも違う打席になります。

- 4 Q: 1 日目に 43 球(最終打者に投じた 1 球目は 38 球目で、6 球を投げた)、2 日目に 42 球(最終打者に投じた 1 球目は 35 球目で、8 球を投げた)を投げた。それぞれ 40 球を超えているが、打席の途中で超過しているので、3 日目も 40 球以内であれば投球(連続する 3 日で 3 連投)することが出来ますか？

A: 出来ません。

1 日目に課せられる制限は、1 日上限 80 球だけで、その日の投球実績が 43 球と記録されます。同様に 2 日目は、1 日上限 80 球及び連続する 2 日間で 120 球以内なので、2 日目の投球実績が 42 球、2 日間で合計 85 球が記録されます。「連続する 2 日間で 80 球を超えた場合は 3 日目禁止」および「3 連投する場合は、1 日上限 40 球」に抵触します。既に記録された投球実績を過去に遡って見直すことは出来ません。

- 5 Q:大会初日、二日目と連続した 2 日間捕手としてフル出場した選手が、3 日目に投手として登板する事が出来ますか？

A:出来ます。

投手として登板するまでの試合における投手以外の選手の出場実績は、以後の試合における登板に対して何ら制限を与えるものではありません。

- 6 Q:大会初日がダブルヘッダーで、第一試合で 20 球、第二試合で 10 球を投球した場合、翌日の試合にも登板できますか？出来るとすれば、制限数は何球になりますか？

A:登板することは出来ます。

但し、ダブルヘッダーの両試合に登板した場合は、連続する 2 日間で 2 試合に登板したことに相当しますので、翌日の登板は 3 連投になり、その日の上限は 40 球となります。

- 7 Q:ダブルヘッダーの第一試合に 80 球を投球し、第二試合は投手として登板しませんでした。ダブルヘッダーは連続する 2 日間に相当するため、第二試合に登板しなければ翌日に 80 球の投球は可能ですか？

A:翌日に登板することは出来ますが、上限は 40 球です。

試合運営上ダブルヘッダーになっていますが、その投手個人にとっては第一試合しか登板していないので、シングルゲームに登板したのと同じ状況になり、その日に 80 球投げているのであれば、連続する 2 日間で合計 120 球の制限が適用されるので、翌日は上限 40 球になります。

- 8 Q:ダブルヘッダーの第一試合に 40 球を投球(ちょうど 40 球を投げたところで降板、もしくは最終打者がちょうど 40 球目で打撃が終了)し、第二試合で最終打者に 38 球目から 45 球目を投球した場合、翌日の試合に登板する事ができますか？

A:翌日に登板することは出来ますが、上限は 40 球です。

第二試合での実質投球数は 45 球ですが、この日の制限数は上限 80 球で、第一試合に 40 球を投球したので、第二試合は 40 球(40 球を超えても、当該打者の打撃終了時まで投球可能)となります。よって、当日記録として残る投球数は、第一試合、第二試合共に 40 球となることから、翌日は上限 40 球として 1 試合だけ(3 連投は可能、4 連投は禁止)登板することが出来ます。

なお、第一試合で実質投球が 40 球を超えた投球の場合は、この時点での制限数が 80 球で、実質投球数が記録として残るため、翌日の登板は出来ません。(3 連投する場合、1 試合の投球数は 40 球以内)

- 9 Q: 当日 1 試合に登板して 40 球を投球(ちょうど 40 球を投げたところで降板、もしくは最終打者がちょうど 40 球目で打撃が終了)しました。翌日はダブルヘッダーでの試合が予定されていますが、順調に勝ち進んだ場合に 2 試合とも登板出来ますか？

A: 出来ますが、3 連投になるので 1 試合の上限は共に 40 球になります。

まず、翌日のダブルヘッダー第一試合の投球に関して課せられる制限数は、1 日最大 80 球及び連続する 2 日間で 120 球以内となるため、前日 40 球を投球しているため、この試合では 80 球を上限として登板出来ます。

更に勝ち進むことを想定してダブルヘッダー第二試合にも登板させようとするのであれば、前日の試合と合わせて 3 連投となるため、第一試合の実質投球数を 40 球以内に抑えないと第二試合に登板することが出来ません。第一試合の実質投球数が 40 球以内であれば、第二試合では上限 40 球(打席終了までの超過分はカウントしない)として登板できます。

- 10 Q: ある打者の打席の途中で制限数を越えても、その打者の打撃が終了するまで(アウトになるか、塁に出るまで)、投球を継続する事が出来るが、制限数を越えた後にその打者に代打を出した場合は、投手も降板しないとダメですか？

A: 投球を継続する事が出来ます。

打者は同一ではありませんが、一連の打席と見なし、代打に出た打者の打撃が終了するまで投球することが出来ます。複数名の代打が出場しても、同様の対応を行う。

- 11 Q: ある投手に変わって登板した投手が、牽制球で走者アウトとなり、打者に向かって 1 球も投げないうちに試合終了となったが、その日の別の試合(ダブルヘッダーの第二試合、等)もしくは翌日に登板した場合は、二連投になりますか？

A: 連投になりません。

正式には投手としての登板が記録に残りますが、その試合での投球数は 0 球なので、投球数に関しては記録が残らず、登板しなかったのと同様と見なします。